



平成 30 年 11 月 6 日 発表

担 当	多治見労働基準監督署	
	安全衛生課長	辻 健夫
	電 話	0572 - 22 - 6381
	夜 間	0572 - 22 - 6424

職場における熱中症発生状況について

今夏は 34 人が職場で熱中症に
前年に比べ約 3 倍の増加

多治見労働基準監督署（署長：大谷 徹）は、平成 30 年に管内（多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市、御嵩町）で発生した職場における熱中症の発生状況（速報値）をとりまとめました。

ポイント

- 1 本年6月から8月までの間に、仕事が原因で熱中症になり医療機関を受診した労働者数は 34 人となり、前年の 12 人に比べて 22 人（183%）の増加となった。
- 2 そのうち、半数を超える 19 人が屋内作業で、15 人が屋外作業で発症しており、屋外よりも屋内作業で多く発生していた。
- 3 熱中症が発生しやすい気象条件は、
「暑さ指数」や気温が急激に上昇した時期（熱への順化期間が充分に取れない時期）
「暑さ指数」が 31 を超える日（最高気温が 35 を超える猛暑日）
であり、気温が急上昇したときや暑さ指数が「危険」であるとされたときは、とくに熱中症予防対策が求められる。

（熱中症発生状況 [別添 1](#) 熱中症発生事例 [別添 2](#)）

- 1 平成 30 年に多治見労働基準監督署管内において熱中症の症状を呈し医療機関を受診した労働者の数は 34 人でした（労災保険給付件数による速報値。）
- 2 過去 3 年間の熱中症発生件数は、平成 27 年が 11 人、平成 28 年が 18 人、平成 29 年が 12 人であり、今年（34 人）は昨年（22 人）に比べて 22 人（183%）増加しました。

3 熱中症となった 34 人の発症場所別の内訳は、屋内 19 人、屋外 15 人（自動車による外出中を含む。）となり、工場内などの屋内での発症が半数を超えました。

4 熱中症が発生した日の特徴は、

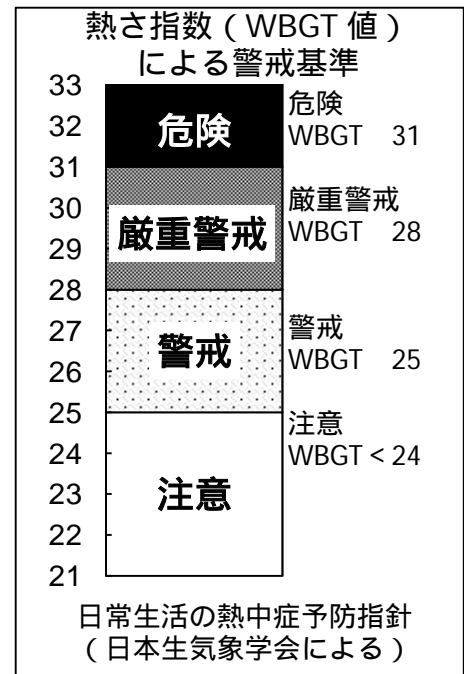
「暑さ指数」(WBGT 値) や気温が急激に上昇した時期（熱への順化期間が充分に取れない時期）

「暑さ指数」(WBGT 値) が 31 を超える「危険」な日（最高気温が 35 を超える猛暑日）でした。

5 「暑さ指数」(WBGT 値) とは、熱中症予防のための指標であり、人体と外気との熱収支を考慮するために 湿度 輻射熱 気温の影響を取り入れたものとなっています（環境省「熱中症予防サイト」参照。）

「暑さ指数」(WBGT 値) が 31 以上の環境は、日常生活において熱中症が発生するおそれが多くに高い「危険」な状況とされています（日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver.3」(2013) 参照。）

その場の「暑さ指数」(WBGT 値) を簡便に計測することができる「暑さ指数計」(WBGT 計、JIS 規格「JIS B 7922」) が市販されており、職場においても暑熱環境の把握のために活用されています。



WBGT 計

6 熱中症予防対策においては、「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」といった衛生管理の 3 管理が基本です。

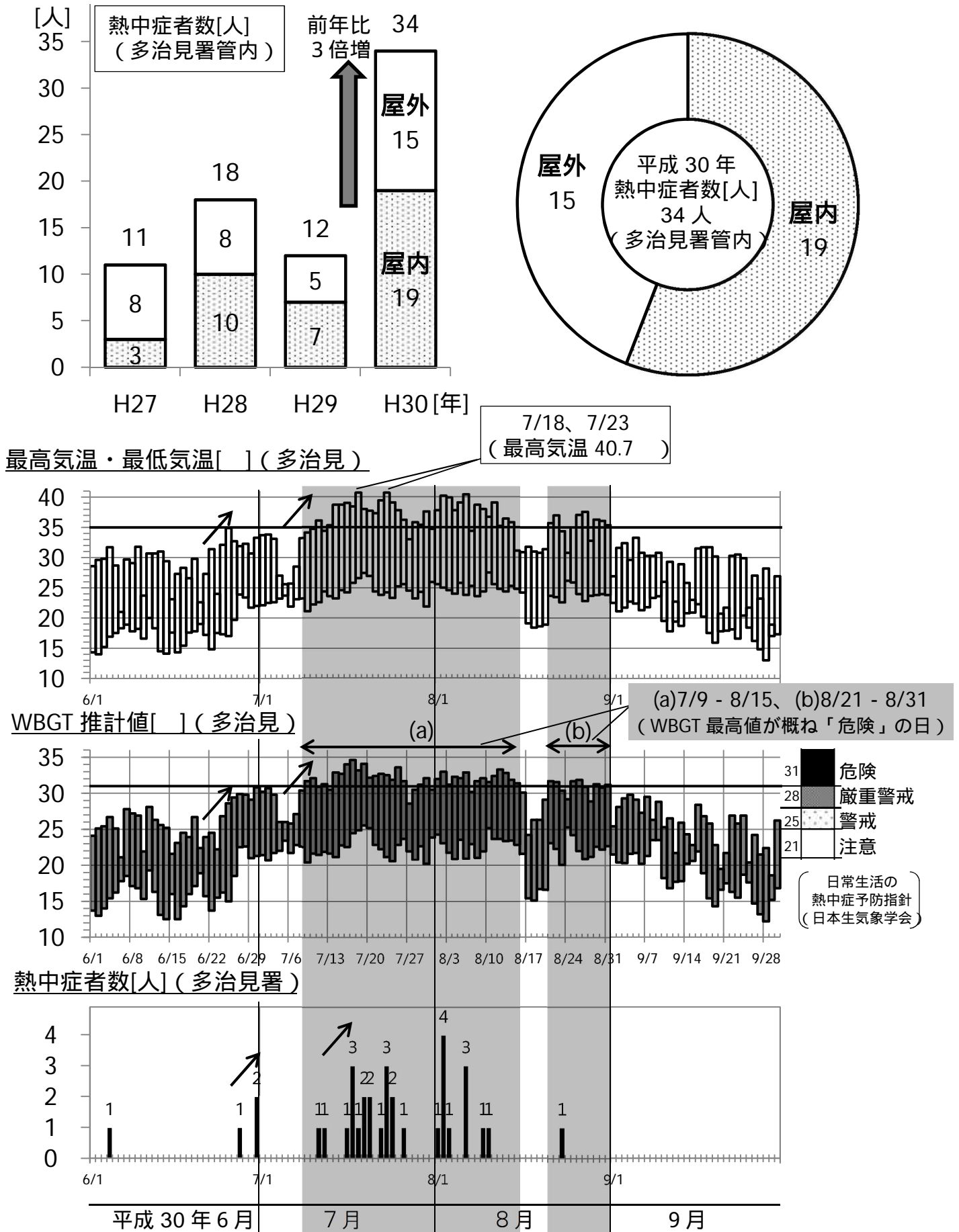
「暑さ指数計」(WBGT 計) を用いて職場の暑熱環境を把握し、暑熱環境が「危険」な状況にある場合 (WBGT 31) には、緊急避難として当日の作業を見直す等の作業管理が大切です。

加えて、糖尿病、高血圧症、心疾患、腎不全などの基礎疾患のある方については比較的熱中症になる可能性が高いとされていることから注意が必要です。

7 多治見労働基準監督署では、今回のとりまとめを踏まえ、来夏に改めて管内の事業者に対し熱中症予防対策について注意喚起を図ることとしています。

多治見労働基準監督署管内の熱中症発生状況
(多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市、御嵩町)

別添 1



熱中症者数は、労災保険請求状況から作成。気温は、気象庁による「多治見」における最高気温・最低気温データをもとに作成。WBGT 値(熱さ指数)は、環境省による「多治見」における WBGT 推計値(1時間値)から各日の最高値・最低値を抽出して作成。

多治見労働基準監督署管内の熱中症発生事例
(多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市、御嵩町)

1	屋内	食料品製造業	7月	最高気温	38.0	猛暑日
				最高WBGT値	34.1	危険

工場内で、午前6時30分から揚子物製造作業を行っていた。午前11時頃から気分が悪くなり始め、水分補給をするなどしたものの、午後0時に意識を失って倒れ、救急車で医療機関に搬送された。

2	屋内	タイル製造業	7月	最高気温	39.0	猛暑日
				最高WBGT値	34.0	危険

窯から出たタイルの選別作業を室温約40度の作業場で午前8時15分から午前10時前まで行った後休憩に入るも、意識がもうろうとし歩行が難しくなり座り込み、顔色が悪くなったため救急車で医療機関に搬送された。

3	屋内	社会福祉施設 (高齢者介護)	7月	最高気温	38.4	猛暑日
				最高WBGT値	34.6	危険

午前9時30分から午前11時まで入浴介助を行う。頭痛を覚えつつ、引き続き食事介助を行うも、午後0時30分に頭痛が治まらず休憩。午後1時30分過ぎに吐き気も感じる。引き続き休憩して様子をみた後、午後3時45分に医療機関を受診した。

4	屋外	建設業 (外構工事)	8月	最高気温	40.2	猛暑日
				最高WBGT値	33.0	危険

側溝敷設作業中、午前9時30分頃体調不良を感じ休憩をしていたものの、午前10時頃吐き気がしたため作業を中断して、医療機関を受診した。

最高気温は、気象庁による「多治見」における最高気温データに基づく。

最高WBGT値(熱さ指数)は、環境省による「多治見」におけるWBGT推計値(1時間値)から各日の最高値を抽出したものの。